



スポーツ庁  
JAPAN SPORTS AGENCY

# 子供たちが多様なスポーツに親しむための 部活動改革について

令和4年9月8日

スポーツ庁長官 室伏 広治

# スポーツ基本法とスポーツ基本計画

## スポーツ基本法(2011年制定)

- スポーツの持つ意義や役割、効果等を明らかにするとともに、スポーツに関する基本理念を規定
- スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、すべての人々の権利であるとし、健康の保持増進や安全の確保等の規定を整備
- プロスポーツや障害者スポーツを推進の対象とすることを明確化するとともに、国際競技大会の招致・開催、優秀な選手の育成など、時代の変化等に対応した施策の規定を整備

スポーツ基本法の理念を具体化し、スポーツ立国実現のための具体的施策等を規定

## スポーツ基本計画

### 5年間の日本のスポーツの重要な指針

今後の我が国のスポーツ政策の方向性を示すもの



関係者が一体となって「スポーツ立国」実現を目指す

# スポーツ基本計画について



## 「世界共通の人類の文化」としての「スポーツ」

スポーツ基本法の前文において、  
「スポーツは、**世界共通の人類の文化**である」と示されている。

スポーツを「する」「みる」「ささえる」という様々な参画を通じて、  
より多くの人々がスポーツの楽しさや感動を分かち合うような「スポーツ文化」の成熟に向けて、  
スポーツ基本計画においては必要な方針や具体的施策等を示すことが求められている。



## 基本計画で取り扱う「スポーツ」

スポーツは、「する」「みる」「ささえる」という  
様々な形での「**自発的な**」参画を通して、  
人々が感じる「**楽しさ**」や「**喜び**」に本質を持つもの  
(「Well-being」の考え方にもつながる)

基本



する



みる



ささえる



地域社会  
の再生



健康長寿社会  
の実現



国民経済  
の発展



国際相互  
理解の促進

など

スポーツを通じて、他の分野にも貢献し、  
優れた効果を波及したり、様々な社会課題を解決したり  
することができるという**社会活性化等に寄与する**

スポーツ基本法第9条第1項に基づき、文部科学大臣が定めなければならないとされている、スポーツに関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な計画。

2012  
(平成24年度)

2015年（平成27年）10月



第1期スポーツ基本計画  
(H24~H28)



2022年（令和4年）  
3月3日 スポーツ審議会答申  
3月25日 **第3期スポーツ  
基本計画策定**

2017  
(平成29年度)

第2期スポーツ基本計画  
(H29~R3)

2022  
(令和4年度)

**第3期スポーツ基本計画**  
(R4~R8)

# 今後5年間に**総合的かつ計画的**に取り組む**12の施策**

## ① 多様な主体における

### スポーツの機会創出

地域や学校における子供・若者のスポーツ機会の充実と体力向上、体育の授業の充実、**運動部活動改革の推進**、女性・障害者・働く世代・子育て世代のスポーツ実施率の向上 等

## ② スポーツ界におけるDXの推進

先進技術を活用したスポーツ実施のあり方の拡大、デジタル技術を活用した新たなビジネスモデルの創出 等

## ③ 国際競技力の向上

中長期の強化戦略に基づく競技力向上支援システムの確立、地域における競技力向上を支える体制の構築、国・JSPO・地方公共団体が一体となった国民体育大会の開催 等

## ④ スポーツの国際交流・国際貢献

国際スポーツ界への意思決定への参画支援、スポーツ産業の国際展開を促進するプラットフォームの検討 等

## ⑤ スポーツによる健康増進

健康増進に資するスポーツに関する研究の充実・調査研究成果の利用促進、医療・介護や企業・保険者との連携強化 等

## ⑥ スポーツの成長産業化

スタジアム・アリーナ整備の着実な推進、スポーツ経営人材育成やスポーツ団体の経営力強化等への支援 等

## ⑦ スポーツによる地方創生、

### まちづくり

武道やアウトドアスポーツ等のスポーツツーリズムの更なる推進など、スポーツによる地方創生、まちづくりの創出の全国での加速化 等

## ⑧ スポーツを通じた共生社会の実現

障害者や女性のスポーツの実施環境の整備、国内外のスポーツ団体の女性役員候補者の登用・育成の支援、意識啓発・情報発信 等

## ⑨ スポーツ団体の

### ガバナンス改革・経営力強化

ガバナンス・コンプライアンスに関する研修等の実施、スポーツ団体の戦略的経営を行う人材の雇用創出を支援 等

## ⑩ スポーツ推進のための

### ハード、ソフト、人材

民間・大学も含めた地域スポーツ施設の有効活用の促進、地域スポーツコミッションなど地域連携組織の活用、全N Fでの人材育成及び活用に関する計画策定を促進、女性のスポーツ指導に精通した指導者養成支援等

## ⑪ スポーツを実施する者の

### 安全・安心の確保

暴力や不適切な指導等の根絶に向けた指導者養成・研修の実施、スポーツ安全に係る情報発信・安全対策の促進 等

## ⑫ スポーツ・インテグリティの確保

スポーツ団体へのガバナンスコードの普及促進、スポーツ仲裁・調停制度の理解増進等の推進、教育研修や研究活動等を通じたドーピング防止活動の展開 等

# 部活動改革について

---

## 改革の方向性

- まずは、**休日の運動部活動から段階的に地域移行していくことを基本とする**
- 目標時期：令和5年度の開始から3年後の令和7年度末を目途**  
（合意形成や条件整備等のため更に時間を要する場合にも、  
地域の実情等に応じ、可能な限り早期の実現を目指す）
- 平日の運動部活動の地域移行は、できるところから取り組むことが考えられ、  
地域の実情に応じた休日の地域移行の進捗状況等を検証し、更なる改革を推進**
- 地域におけるスポーツ機会の確保、生徒の多様なニーズに合った活動機会の充実等  
にも着実に取り組む**
- 地域のスポーツ団体等と学校との連携・協働の推進**  
※改革を推進するための「選択肢」を示し、「複数の道筋」があることや、「多様な方法」があることを強く意識



- ・ガイドラインの改訂
- ・地方公共団体における推進計画の策定・実施
- ・公的な支援

# 運動部活動の地域移行に関する課題への対応

## 新たなスポーツ環境

- ・地域の実情に応じ、多様なスポーツ団体等が実施主体
- ・特定種目だけでなく、生徒の状況に適した機会を確保

## 大会

- ・大会主催者に対し、地域のスポーツ団体等の参加も認めるよう要請
- ・地域のスポーツ団体等も参加できる大会に対して支援

## スポーツ団体等

- ・先進的に取り組んでいる事例をまとめ提供
- ・必要な予算の確保やtoto助成を含む多様な財源確保の検討

## 会費や保険

- ・困窮する家庭へのスポーツに係る費用の支援方策の検討
- ・スポーツ安全保険が、災害共済給付と同程度の補償となるよう要請

## スポーツ指導者

- ・指導者資格の取得や研修の実施の促進
- ・部活動指導員の活用、教師等の兼職兼業、人材バンク
- ・指導者の確保の支援方策の検討

## 学習指導要領等

- ・部活動の課題や留意事項等について通知、学習指導要領解説の見直し、次期改訂時の見直しに向けた検討
- ・部活動等から伺える個性や意欲・能力を入試全体を通じ多面的に評価
- ・教師の採用で部活動指導の能力等を過度に評価していれば、見直す

## スポーツ施設

- ・学校体育施設活用に係る協議会の設置、ルールの方策
- ・スポーツ団体等に管理を委託

※国立の中学校等でも、学校等の実情に応じて積極的に取り組むことが望ましい。

※公立及び国立の高等学校等については、義務教育を修了し進路選択した高校生等が自らの意思で選択している実態等があるが、各学校の実情に応じて改善に取り組むことが望ましい。

※私立学校でも、学校等の実情に応じて適切な指導体制の構築に取り組むことが望ましい。

# 提言を踏まえたスポーツ関係団体への要請等について

検討会議提言においては、運動部活動の地域移行の推進のため、国から日本スポーツ協会（JSPO）、各競技団体、日本中学校体育連盟、スポーツ安全協会へ要請すべき内容が盛り込まれた。

これを受けて、令和4年7月26日にJSPO、日本中学校体育連盟、スポーツ安全協会に対して要請文を手交。

## 日本スポーツ協会（JSPO）

1. 地域におけるスポーツ活動の実施主体の確保
2. 地域におけるスポーツ指導者の質の保障・量の確保
3. 大会の在り方の見直し等（加盟団体の主催大会における見直し等への協力・支援）
  - （1）地域のスポーツ団体等に所属する生徒の大会参加機会の確保
  - （2）今後の大会の在り方
  - （3）大会参加生徒の安全確保
  - （4）大会引率・運営に係る教師の負担軽減

## 日本中学校体育連盟

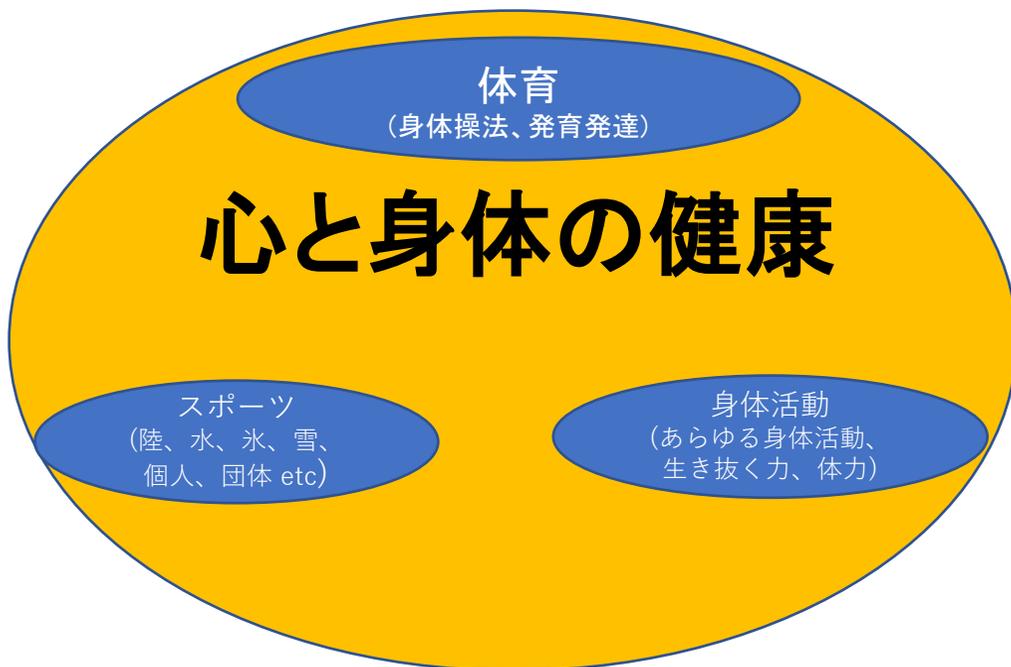
大会の在り方の見直し等

- （1）地域のスポーツ団体等に所属する生徒の大会参加機会の確保
- （2）今後の大会の在り方
- （3）大会参加生徒の安全確保
- （4）大会引率・運営に係る教師の負担軽減

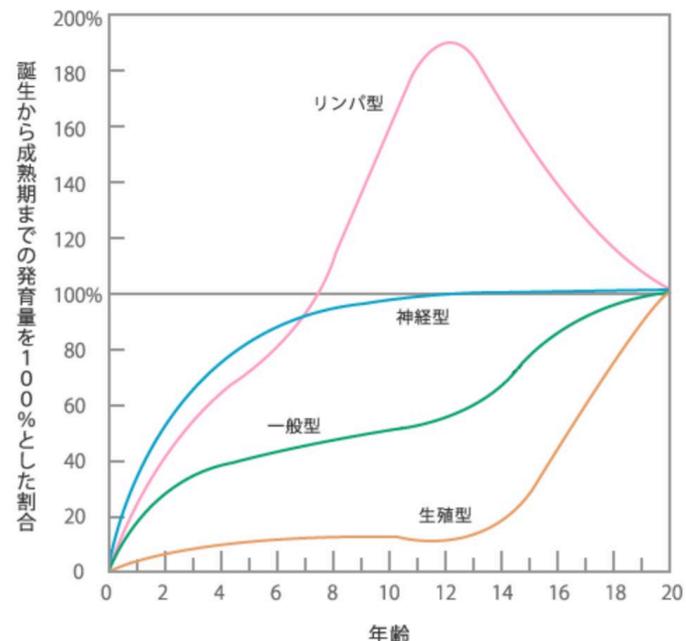
## スポーツ安全協会

スポーツ安全保険の補償内容の充実

# スポーツ活動は子供達の 心身の発育発達に寄与



## スキャモン発育曲線



(松尾保:新版小児保健医学、松尾保編、日本小児医事、出版社、東京、第5版、p10、1996より)

少子化の中でも、将来にわたり我が国の子供たちがスポーツに継続して親しむことができる機会を確保

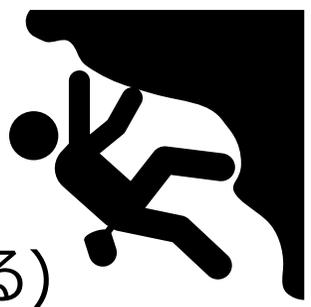
スポーツは、**自発的な参画**を通して「**楽しさ**」「**喜び**」を感じることに本質  
自己実現、活力ある社会と絆の強い社会創り  
部活動の意義の継承・発展、新しい価値の創出

- ✓ スポーツは、「義務」であってはいけない。
- ✓ トップ選手でも、週2回は身体を休める。
- ✓ 今詰めて運動させ、才能を潰してはいけない。

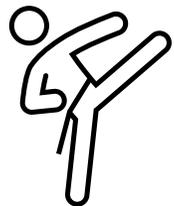
**地域の持続可能で多様なスポーツ環境を一体的に整備し、子供たちの多様な体験機会を確保**  
**(スポーツ団体等の組織化、指導者や施設の確保、複数種目等の活動も提供)**

- ✓ オリンピック・パラリンピック競技は、学校の体育や活動にはない種目も多い。子供たちが多様なスポーツを経験するには限界がある。
- ✓ 早くから専門的に一つのスポーツを行っても、オリンピック選手・プロ選手になれるわけではない。怪我をしてしまう人や、ジュニア期で競技を終える人も多い。
- ✓ スポーツは、勝ち負けを競うものばかりではない。あらゆるニーズに応える活動であるべき。(例) 技を競う、姿勢を良くする、かっこよくなる

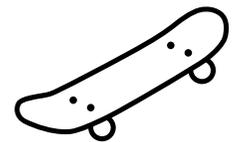
# 子供たちを取り巻くスポーツ・運動の問題



- 一つのスポーツしか経験していない子供（専門化しすぎる）
- スポーツに普段親しむ機会がない子供
- 運動が苦手な子供
- スポーツを行いたくても指導者がいない子供
- 金銭的な理由でスポーツを体験できない子供
- 一つのスポーツにコミットしなければ、スタートできない環境!?
- 目的も勝敗に関係するものばかり？  
→スタイル, カッコいい, 姿勢をよくしたい等、理由は様々のはず



地域別、個別、様々な理由で、  
**体験格差が生まれているのでは？**



# 子供たちの「体験の格差」を解消していくことが必要

- ✓ スポーツに親しむ機会がない子供、一つのスポーツしか経験していない子供、運動が苦手な子供、指導者がいない子供・・・



- ✓ 複数の種目を体験できる活動やレクリエーション的な活動、体験型キャンプなど、多様な活動ができる環境の整備が必要。
- ✓ 子供が3日間行った技術練習でも、生涯にわたって生きる。

# 地域スポーツでのコンテンツの例（体験型キャンプ）

✓ **新たなコンテンツ**

体験型スポーツキャンプ

あらゆるスポーツの  
**Three days camp**



**あらゆるスポーツのスキルを3日で！**

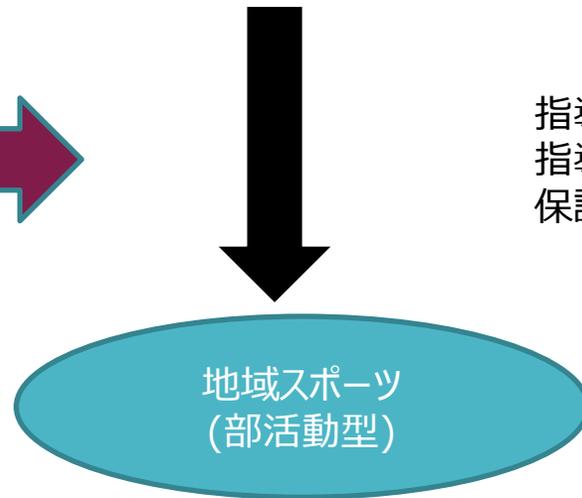
非  
学  
校  
的  
タ  
イ  
ム  
ラ  
イ  
ン

**従来型コンテンツ**

学校部活動



指導者不足  
指導者謝金  
保護者の負担



学  
校  
的  
タ  
イ  
ム  
ラ  
イ  
ン

今のままでは部活動が地域移行するだけの  
コンテンツしかない

# 学校体育やオリンピック・パラリンピックにおけるスポーツ

## スポーツ

### 学校体育

- ・剣道
- ・銃剣道
- ・創作ダンス
- ・ドッジボール
- ・なわとび
- ・タグラグビー

- ・水泳
- ・体操
- ・サッカー
- ・バスケットボール
- ・バレーボール
- ・ハンドボール
- ・陸上
- ・柔道
- ・バドミントン
- ・ブレイクダンス

- ・スキー
- ・卓球

- ・クリケット
- ・ダーツ
- ・吹き矢

- ・野球
- ・ソフトボール
- ・水球
- ・ボート
- ・スケートボード
- ・スピードスケート
- ・ゴルフ
- ・ラグビー

- ・セパタクロー
- ・けん玉

### オリンピック・パラリンピック

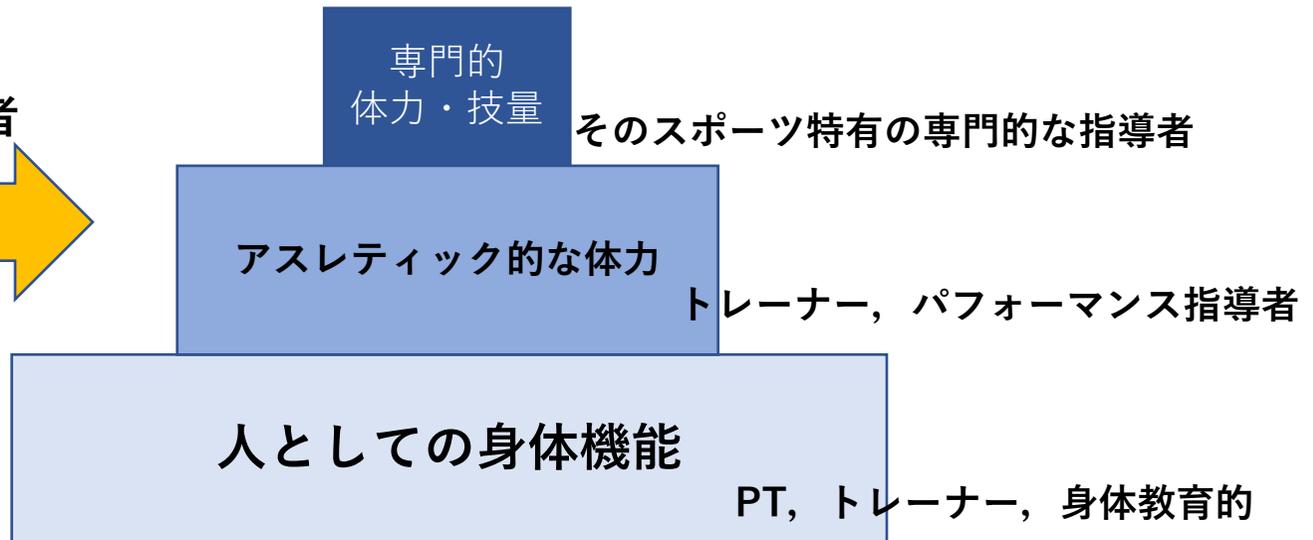
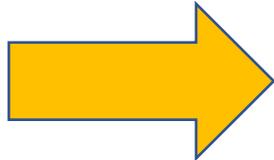
# 地域移行に際しての指導者の体制，あり方

様々な業種が一体的に取り組む

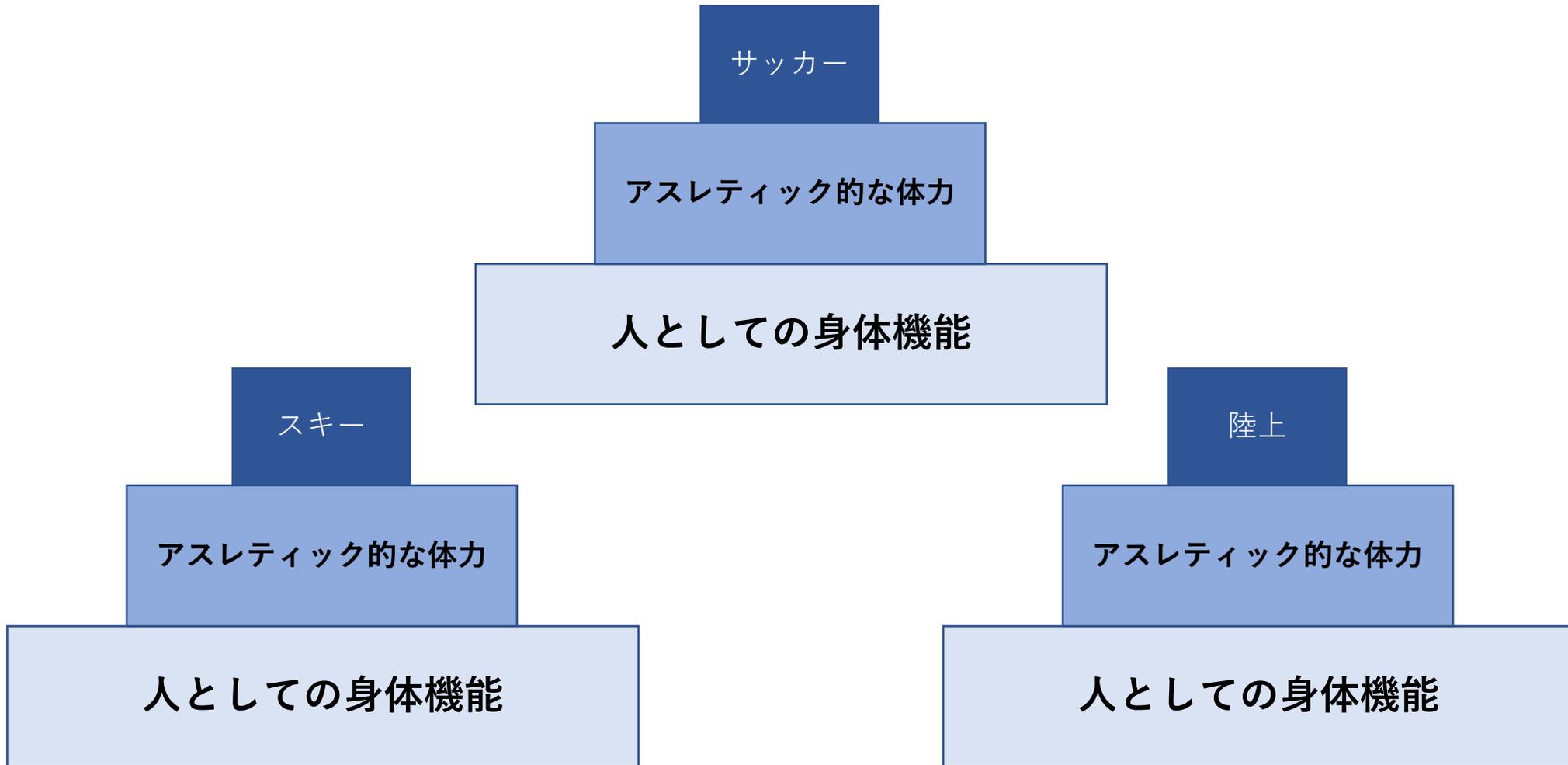
これまで・・・



一人の指導者



# 人と人の機能, アスレティックな機能・体力は共通項目



- 今が、部活動改革を進めるべき最大のチャンスであると言えます。
- 将来にわたり、子供たちの多様なスポーツ機会を確保するためには、スポーツ関係者の皆様のご協力が不可欠です。引き続きご支援・ご協力をお願いします。

# 運動・スポーツの実施に向けた普及啓発

## ○簡単エクササイズのスゝめ

読み終わった新聞紙 1 枚のみでできるエクササイズです。



## ○身体診断「セルフチェック」動画

老若男女問わず自分のペースで簡単に自分の身体の状態を知ることができるセルフチェック動画です。



- ①肩甲骨の動き(上肢挙上)
- ②足首の柔らかさ
- ③胸椎の動き
- ④股関節と背骨の可動性 前屈/後屈
- ⑤下半身の筋力
- ⑥首の動き
- ⑦肩の動き(肩内旋)
- ⑧上体の筋力
- ⑨股関節屈曲の動き(内旋/外旋)  
股関節伸展の動き
- ⑩上半身と下半身の可動性とバランス
- ⑪体幹部の筋力 (全11種類)



# 1, Neck Mobility



1 point



L: 1 point, R: 1 point



L: 1 point, R: 1 point



1 point



## 2, Shoulder Mobility

L: 1 point, R: 1 point

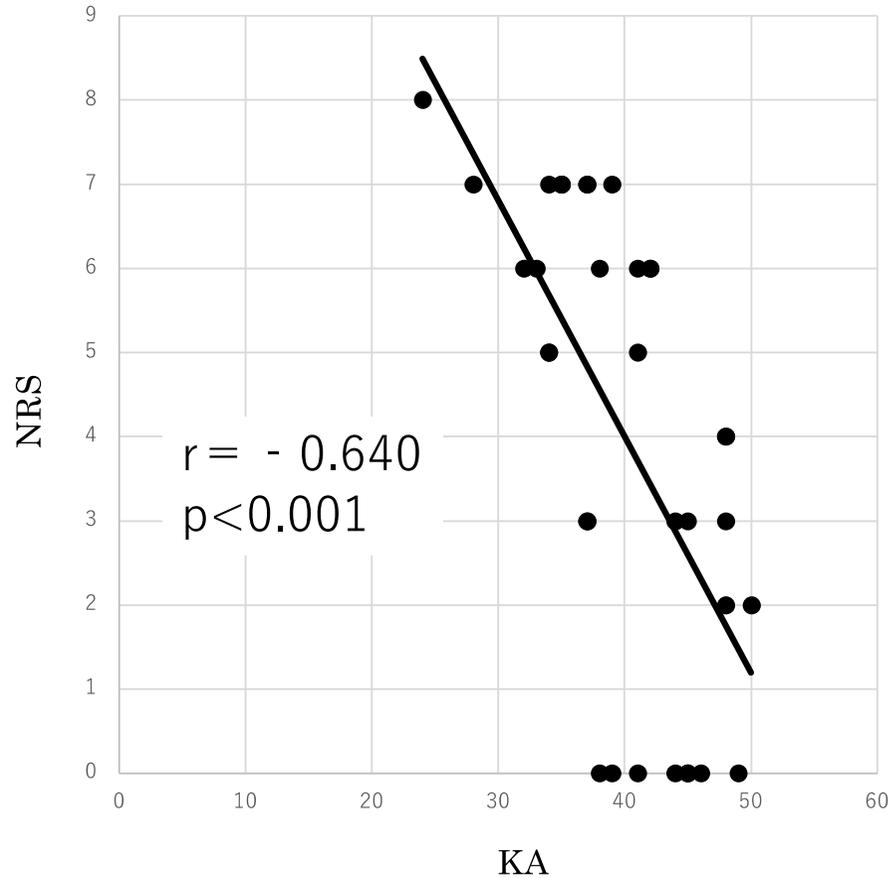


## 3, Shoulder Blade(Scapular) Mobility

L: 1 point, R: 1 point

# 1 1項目の機能総合点と痛みの関係

痛みの強さ



50点満点 総合点

Figure 1. Correlation between KOJI AWARENESS™ and NRS scores (N=35). NRS, Numerous Rating Scale.



スポーツが変える、未来を創る。

Enjoy Sports, Enjoy Life



スポーツ庁  
JAPAN SPORTS AGENCY